

巻頭言

さようなら・こんにちは

『西南学院百年史』
編集委員長 金丸 英子



創立百周年にあたり、学院が正式に『西南学院百年史』の刊行を意識し始めたのは、2005年の常任理事会後からであったと聞く。創立記念の10年も前から周到な準備を以って編纂作業を進め、納得のゆくものを刊行しようとする姿勢の表れであろう。それに合わせて、『西南学院史紀要』の発刊は始まった。現在の編纂委員会は、当初「編纂諮問委員会」と呼ばれており、初代委員長の塩野和夫国際文化学部教授は、2006年の紀要創刊号の編集後記で、紀要の役割を次のように述べている。「小さなスタートが10年後の西南学院創立百周年に向けた西南学院史研究の新たな端緒になればと祈念いたします」。

創刊号には、「『西南学院史紀要』発刊に向けて－抱負を語る」と題した座談会が設けられた。その中で、創刊号発刊に携わった各メンバーはそれぞれに「学院史紀要」への抱負を語るのだが、全員は異口同音に「学院史研究の必要性」を語った。そこで明らかにされたのは、紀要の使命は百年史刊行をもって終わるのではなく、本領発揮はむしろその後にある、ということだ。紀要によって得られた研究成果を百年史編纂に反映させるにとどまらず、年史刊行後も紀要の役割でもあった学院史研究が続けられる。そこから、「世の光、地の塩」として、「西南よ、キリストに忠実なれ」の建学の精神が途切れることなく放ち続けられることを願ったのであろう。

発刊以来一貫して学院史紀要は、論文、座談会、発掘資料紹介、寄稿、講演会報告と盛りだくさんで、「読ませる」内容となっている。毎回組まれた「特集」には、大学博物館（2007年）、学院の宣教師（2008年）、大学とチャペル（2009年）、西南学院とスポーツ（2010年）、大学と国際教育（2012年）など、学院を知る上で欠かすことのできない、興味深く、多彩なテーマが企画された。役職上、一律に配布された本紀要が無造作に放置されているのを見過ごすことができず、それらを拾い集めて歩くことも一度や二度のことではなかった。その『西南学院史紀要』も、2017年5月発行の第12号で最後となる。

今後の学院史研究は、新たに立ち上がった学院史資料センターへバトンタッチされ

ることになった。それを機に、編纂委員会は申し送り事項を作成し、過日パークレー
センター長へ手渡したところである。

「さよならは別れの言葉じゃなくて、再び逢うまでの遠い約束…」という歌詞の歌
がある。この編纂委員会も、最終号で一旦、学院史研究に「さよなら」を告げるこ
になる。しかしこれは、それに「再び逢うまでの約束」が詰まったお別れだ。

最後に、これまで様々な形で紀要刊行に惜しみないご協力を頂いた方々、愛読して
くださった方々にお礼を申し上げたい。加えてこの機に、これまで10年間の長きにわ
たり、発刊業務に携わってきた担当事務職員たちの労をもあわせて覚えていただけれ
ば幸いである。

資料センターへの申し送り事項

2016(平成28)年12月5日
百年史編纂委員会50-3-2

No.	項目	内 容	備 考
1	学院史研究会の 立ち上げ	百年史総論監修の過程で、監修委員 会において、複数の項目について 研究会（個人、グループ）を立 ち上げ、学院保管資料の精査、関 連資料の収集・精査を行ない、事 実の検証を行なう作業が必要では ないかとの提言がなされた。 研究成果については、研究発表会 および資料センター発行の『紀 要』で公表するのが適当。	百年史総論監修の過程で出された 項目は、次のとおりであるが、今 後各論の監修を行なう中で、新た に追加される可能性がある。 ①宣教師（No.5、6、7と関連） ②「建学の精神」成立の経緯 ③西南学院と戦争（特に学徒出陣 関連、西南学院平和宣言の具体 的な継承） ④西南学院大学と大学紛争 ⑤西南学院とスポーツ ⑥地域の歴史と西南学院との関わり ⑦「西南学」の研究
2	大学博物館との連携	大学博物館においてユダヤ教・キ リスト教の4千年の歴史を、資料 センターにおいて福岡に種が播か れて開花した歴史を展示等で紹介 しており、両館の展示には流れが あるので、連携することでよりよ い展示が可能となる。	
3	オーラル・ヒストリー （歴史の口述筆記）の 実施	学院史資料の収集に関連して、特 に戦前・戦中・戦後まもない頃の 西南を知る人たち（主に卒業生） に、計画的・継続的にオーラル・ ヒストリーを実施していく必要が ある。	

No.	項 目	内 容	備 考
4	「西南学院史」講義の見直し	現在実施されている「西南学院史」講義の内容（カリキュラム、講師、テキスト等）や運営等について、資料センターが現在の講義責任者、コーディネーター、教務課などと連携し、見直しを行なって、より良い自校史講義の実施につなげる。	テキストの作成については、百年史総論・年表のダイジェスト版の作成が考えられる。
5	「日本におけるバプテスト研究」の拠点	九州におけるプロテスタント、日本におけるバプテストの研究拠点としての機能を持たせる。	バプテスト連盟との連携・交流を推進する。西南女学院、関東学院等、国内のバプテスト派の教育機関をはじめ、バプテスト連盟、バプテスト同盟などの教派団体との連携・交流を深める。
6	英文資料の収集・整理・保管	米国のミッション・ボード、サザンバプテスト神学校、南部バプテスト歴史図書館等に所蔵されている西南学院や西南学院宣教師に関する資料を計画的に収集し、史実としてまとめる作業が必要である。	No.1の①、No.4、5と関連。
7	『西南学院と79人の宣教師』（仮題）の刊行	西南学院に派遣された宣教師79人に関する資料を収集・検証し、79人全ての宣教師のプロフィールや宣教活動をまとめた書籍を発刊する。	No.1の①、No.4、5、6と関連。現在、西南学院在職の元宣教師の方々の協力を得る。
8	在学生に「建学の精神」を理解してもらうための方策の検討		編纂委員会では『C.K.ドージャーの生涯』（復刻本）を2014～2016大学卒業生に卒業式時に配付。
9	『西南学院写真集』の刊行	これまでに「西南学院」の本格的な写真集は刊行されていないこともあり、その刊行を希望。	百年史編纂の過程で、委員から要望が出されたが、経費や事務量の増大を考慮し、刊行を見送った。